

原発処理水海洋放出 吉川 優成 58 会社員(高知市春野町南ケ丘)

「夏休みの宿題を提出期限2日前に提出。内容は事前に提示された宿題ではなく自分が選んだもので、これで夏休みの宿題は完了」。岸田文雄首相の原発処理水海洋放出の報を聞き頭に浮かんだことです。

「廃炉と福島復興のため先送りできない」との主張ですが、突っ込みどころ満載です。処理した水、麻生太郎さんは飲めると言いましたか。

飲める水をわざわざ海水で薄めて、トンネル掘った1キロ先に放出。その水のトリチウム濃度を測定して、微量である。当たり前前の話ではないですか。飲める水ならそのまま放出できるし、水不足の所に供給すればいいのではないですか。

問題の本質は、人間は高濃度放射線の環境では生きられないこと。高濃度放射性廃棄物の中には、無害になるまで10万

年かかるものもあります。原発は熱を出し続け、水で冷やし続けなければいけない。原発敷地には地下水が入り込んできます。

原発敷地を周りの環境から隔離して、敷地内部だけで水を循環させることが一番の宿題じゃないですか。1キロのトンネルを掘った情熱を、原発敷地隔離土木工事に使ってほしいです。

首相は「数十年かかろうと責任をもって事にあたるとおっしゃっている」ですが、ことは数十年ではなく10万年というオーダーであって、誰も責任など取れないものです。

「丁寧な説明で理解をしてもらう」ともおっしゃいますが、理解が必要なのは首相の方。首相こそ、筋違いな行動を(丁寧な思考で、現状を理解して)改めなければならぬと思います。